

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

兵庫県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	氷上町立中央小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	2	15	23
児童数	44	50	51	45	62	73	2	327	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の向上をめざして

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1・2・3・4・5・6年生算数
 これまで、国語で培ってきた「読む、書く、話す」の力は全ての教科・生活の基礎であると考え、その力を算数科に生かし、コミュニケーション能力の育成と一人ひとりの基礎・基本の確実な定着を図るため。
 3・5年生算数 少人数授業
 児童の理解の状況に個人差が出やすい教科、学年であり、少人数によるきめ細かな指導で、学習内容の定着を図るため。

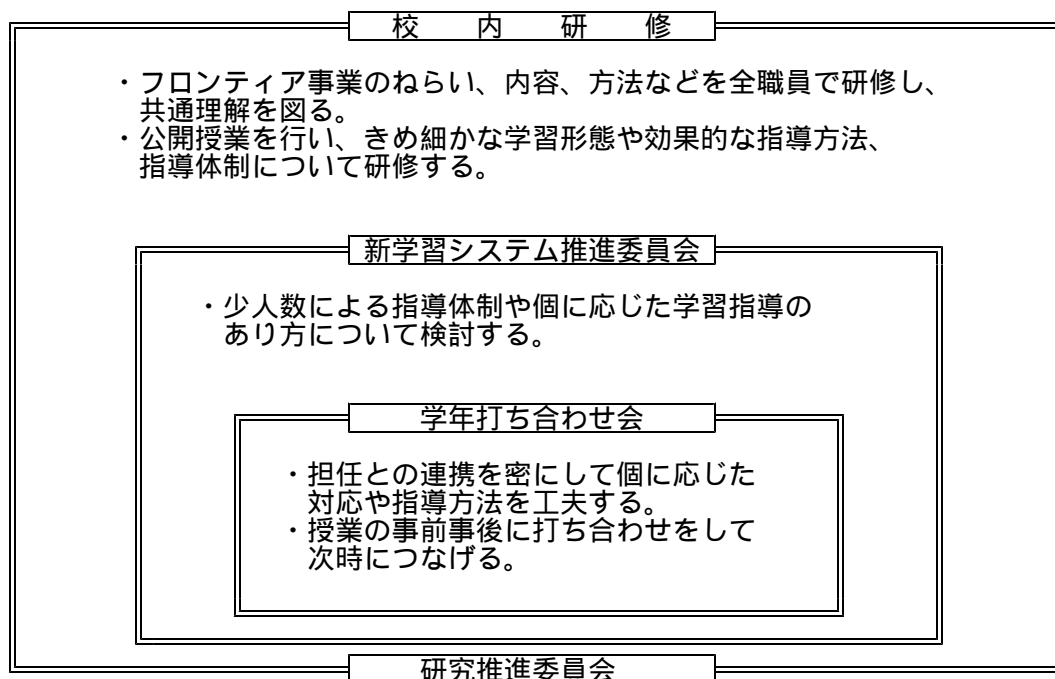
(2) 年次ごとの計画

平成14年度
 テーマ
 基礎学力を定着させるための学習環境作り
 研究の見通し(仮説)
 定期的な朝読書、算数での少人数授業を導入することにより、落ち着いて授業に臨めるのではないか。
 研究の内容・方法
 朝読書の指導・徹底、児童の意識調査
 少人数授業など、学習形態や指導方法の工夫研究

平成15年度
 テーマ
 基礎・基本を身につけさせるための工夫・実践
 研究の見通し
 子どもの意欲や実態に基づいて、指導を系統的に行うことで、基礎学力が定着するのではないか
 研究の内容・方法
 校内研修体制づくり、児童・保護者の意識調査
 スキル学習の充実
 評価規準に基づく授業研究

平成16年度
 テーマ
 基礎・基本の力の確かな定着
 研究の見通し
 子どもが生き生きと活動する授業を組み立てることで、意欲や関心が深まり、基礎学力が定着するのではないか。
 研究の内容・方法
 児童が主体的に活動する授業研究
 評価研究

(3) 研究推進体制



本年度、校内研修をフロンティアスクールにしぼり、教科も算数を中心にして、研修体制を一本化した。そこでは、学習形態・指導方法・指導体制についての研修に取り組んだ。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

朝読書

- ・2年前より朝8時15分からの10分間、全校一斉に読書に取り組んでいる。
- ・読書環境を整えるために、学校の図書室の本だけでなく、氷上町図書館の長期集団貸し出しも利用している。
- ・学級文庫として教室内に常備することにより、たくさんの本の中から、自分にあった本を選択できるようになった。
- ・長文を何日もかけて読み通す児童も増えてきた。
- ・読書カードを利用しがんばりの足跡を残すことで、励みになっている。また、教師が常に評価していくことを大切にしている。(教師間の交流)

学年発表

- ・大きな声ではっきりと本を読む・発表する・自分なりの方法で表現するなどの力をつける場として朝会を活用し、学年発表をした。また、全員で表現する良さを味わえる場であるとも考えた。
- ・相手に伝わるような読み方や話し方、視覚に訴える方法等を工夫した。
- ・方法面だけでなく内容面の感想の言える子が出てきた。
- ・聞く方への手だて、感想の交流の仕方の指導も必要になってきている。
- ・国語科の授業の中でも、読むこと・書くこと・話すことに重点を置き、音読を多く取り入れたり、1人調べで書いたことをもとに話し合ったりして、高め合う指導をしている。

授業研究

- ・平成15年度の校内研修テーマを「コミュニケーション能力を培い、進んで学ぶ子の育成」～基礎学力の定着を図る算数学習～として、算数科を中心にすえて研究を進めることにした。その中で評価規準をもとにした指導計画を立て、全職員で授業研究を行った。
- ・数学的コミュニケーション能力についての研修を行い、児童が自分の考えを持つ場・意見を交換する場を位置づけた授業の組み立てを考えた。

指導と評価の計画（全9時間）

時間	ねらい・学習活動	単元の評価規準との関連				学習活動における具体的評価規準など	
		関・意	考え方	表・処	知・理	評価規準（評価方法）	十分満足できると判断される状況 努力を要する状況への手だて
1	ものを分けると						

朝のスキル学習

- ・集中力を高め、計算力の向上と定着を図るために、朝学習の時間5～10分程度、学年に応じた内容で計算の時間を取り入れた。

（100マス計算（四則計算）
単元の内容に準じた計算 など

- ・日々の結果を記録するようにして、継続の励みとした。

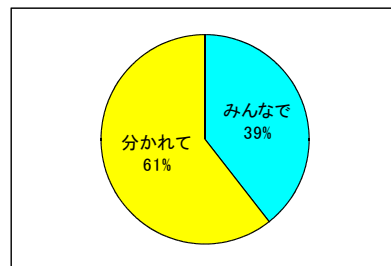


授業形態の工夫

少人数授業

- ・3年生と5年生の算数科において、学年・学級を2～3の少人数編成の学習集団に分け、グループ別指導を行った。
3進1補型・・・学級担任・新学習システム推進教員の3人と児童支援教員
2進1補型・・・学級担任・新学習システム推進教員の2人と児童支援教員
- ・グループ編成については、基本編成（出席番号・生活班など）、学習スタイル別編成、習熟度別編成などいろいろな方法があるが、人権の視点をふまえて、児童の心情を配慮したり、落ち着いて学習できることを考慮したりして編成を行った。児童が主体的に学習できる環境作りが大切であると考えた。
- ・「全員に考えを持たせる。そして図や絵でかき表す力をつける。」ことをねらいとした授業では、自分の考えをシエマ化することに抵抗がある子もいるので、基礎基本の力をしっかり身につけさせる上から、少人数による授業は有効であった。
- ・3年生を3分割し17名の少人数になると、全員の発表ボードが掲示できるし、少人数なので子ども同士の意見の交流がしやすかった。本校のねらう数学的コミュニケーション力をつけていく上で、多人数ではできない経験をさせる機会と場を個々に与えることになり、効果があったといえる。
- ・学習グループは生活班単位で構成したが、多様な考えを出させるには良かった。また、指導者側の共通理解もできた。
- ・個々が受動型学習から参加型学習への変容を図ることができ、意欲を継続させるのに有効であった。
- ・少人数授業に対する子どもたちの意識は、「先生の話がよく聞いて勉強がよく分かる」「人数が少ないので落ち着いて勉強できる」など肯定的にとらえており、一斉指導よりも少人数授業を望む子どもたちが多い。
- ・一斉授業だと受け身になっている子どもが、少人数授業になると自信を持って発言している。
- ・練りあう場で、自分の考えが採用されたり、認められたりすることで、算数が少し好きになったとか、自信がついてきたという子もいる。
- ・人数が少ないと「たくさん発表できる」「答え合わせやまるつけをすぐしてもらえる」といったことを利点と考えている子どもたちも多い。

みんなでいっしょの勉強と
分かれての勉強のどちらが好きですか。



同室複数指導

- ・ 1つの学級に複数の教師が関わり、よりきめ細かな指導を行った。(全学年実施)
担任がT 1になり、児童支援教員がT 2になる場合
担任がT 1になり、新学習システム推進教員がT 2になる場合・その逆の場合
- ・ 授業の途中でT 1とT 2が入れかわることもあった。
- ・ 1時間の流れの中で、同じ教室内において少人数の良さを取り入れることも考えていった。

(個人の考えを把握する場(チェックカード)
指導の分割・分担をする)

- ・ 教室でみんなと一緒に学習するのは楽しい。わからないときに友だちに聞きやすい。多くの人の意見が聞ける。先生が2人いるとわからないとき聞きやすいし、まちがいが早くわかる。安心できる。という児童の意見だった。
- ・ 学習環境づくりは児童の意欲を高める上で大切であると考えます。

2. 今後の課題

- ・ 朝のスキル学習の充実(実態にあったもの・内容の系統性)
- ・ 子どもの実態を把握し、さらに効果的な指導方法を工夫していく。
- ・ 指導内容についての研究、共通理解を図るための時間を確保していく。
- ・ 様々な学習スタイルの研究と、教師間の協力体制の充実を図る。
- ・ 児童の基礎・基本の定着をめざすため、評価と少人数授業の有効性について研究をすすめる。
- ・ 授業時間の弾力的な運用を考える。

学力等把握のための学校としての取組

学力調査については検討中

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 丹波教育事務所主催の学力向上推進研修会で実践発表を行った。

対象 丹波地区学力向上推進協議会委員
各小・中学校新学習システム推進担当教員
日時 平成16年2月3日 13:00~16:00
場所 さんなん町民センター

- ・ 今年度の研修のまとめをHPにて公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|----------------------|---|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下
<input type="checkbox"/> 13~18学級
<input type="checkbox"/> 25学級以上 | <input type="checkbox"/> 7~12学級
<input type="checkbox"/> 19~24学級 | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | T・Tによる指導
その他 | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語
<input type="checkbox"/> 生活
<input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> 社会
<input type="checkbox"/> 音楽
<input type="checkbox"/> その他 | 算数
<input type="checkbox"/> 図画工作
<input type="checkbox"/> 理科
<input type="checkbox"/> 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | |